

新島の火山活動解説資料（平成 31 年 2 月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図 1）

式根監視カメラ（丹後山の西南西約 4 km）による観測では、噴気は認められません。

・ 地震や微動の発生状況（図 2-①②、図 4）

新島付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。
火山性微動は観測されていません。

・ 地殻変動の状況（図 2-③、図 3）

GNSS 連続観測及び傾斜計による観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。



図 1 新島 丹後山周辺の状況
（2月3日、式根監視カメラによる）

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（平成 31 年 3 月分）は平成 31 年 4 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、東京都及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

【計数基準の変遷】
 A型地震 2010年10月1日（観測開始）～ 瀬戸山南から半径約8km、深さ約20km以内
 B型地震 初期 2010年8月2日～2013年9月30日 瀬戸山南振幅0.8 μ m/s以上
 変更 2013年10月1日～ 瀬戸山南振幅4.0 μ m/s以上

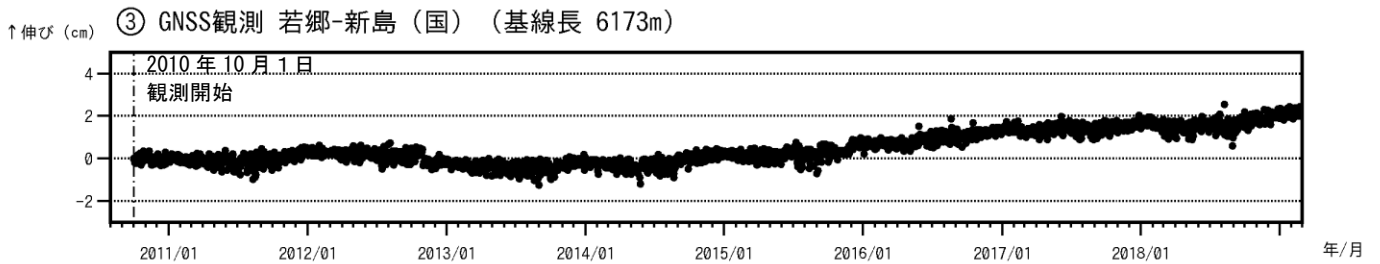
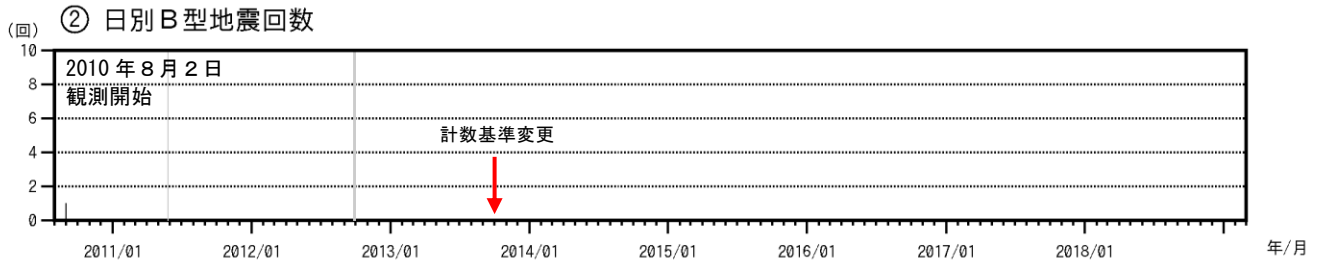
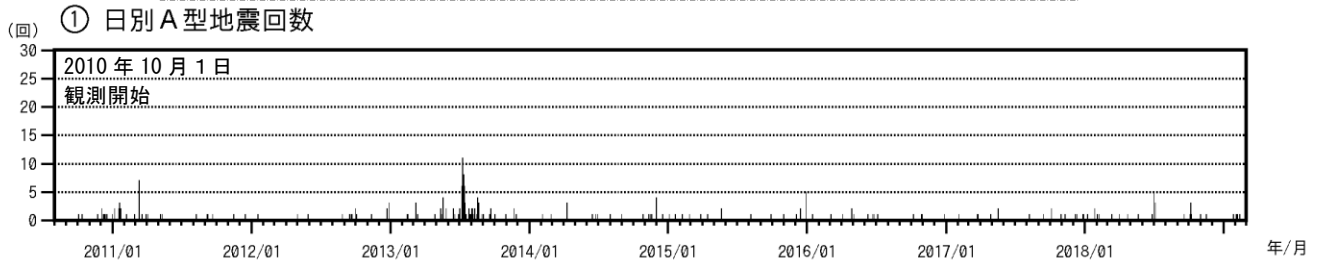


図2 新島 火山活動経過図(2010年8月2日～2019年2月28日)

②のグラフの灰色部分は機器障害のため欠測を示します。
 ③のグラフは図3のGNSS基線③に対応しています。

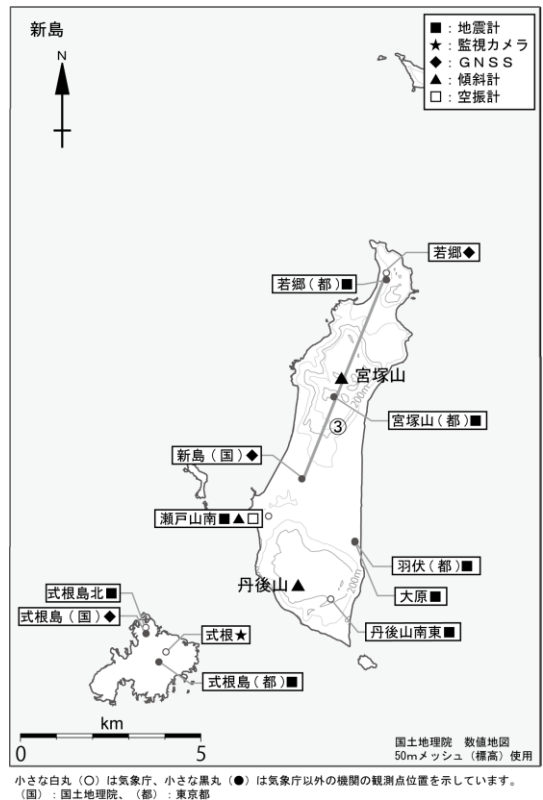


図3 新島 観測点配置図
 GNSS基線は図2の③に対応しています。

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(都) : 東京都

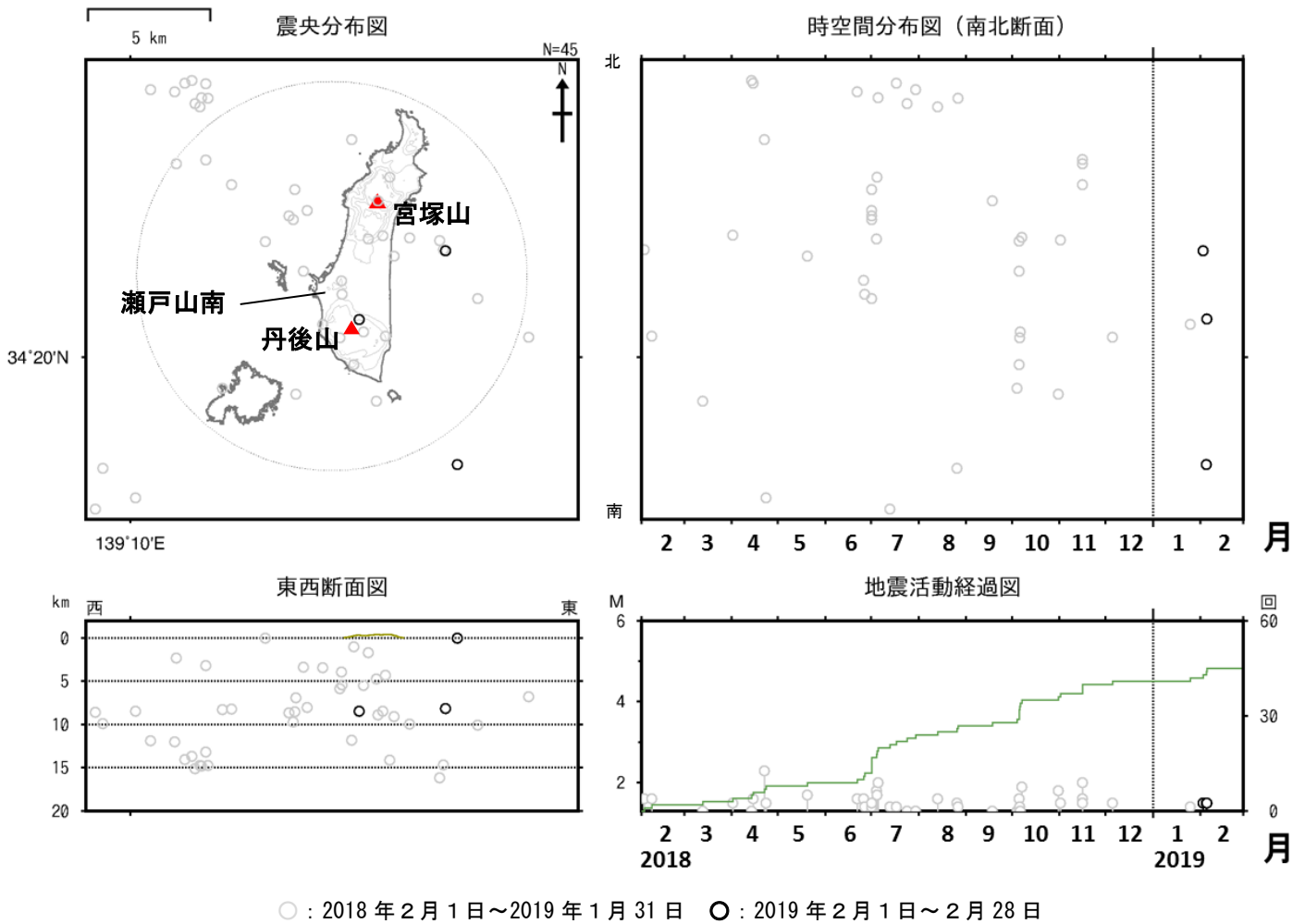


図 4 新島 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2018 年 2 月 1 日～2019 年 2 月 28 日）

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。

M（マグニチュード）は地震の規模を表し、M1.3 以上の地震を示しています。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

計数対象（瀬戸山南から半径約 8 km、深さ約 20km 以内）以外の地震が含まれるため、図 3-①の日別 A 型地震回数とは異なります。

震央分布図中の円は火山性地震の回数の計数対象（瀬戸山南から半径 8 km、深さ 20km 以内）の範囲を示しています。